

03/24/2023

ARRL HQ W1AW 見学ツアー

先日3月24日金曜日にアメリカのアマチュア無線家の聖地、ARRLのHQ、そしてW1AWに所属しているハムクラブのツアーで行って参りました！

場所はアメリカのコネチカット州Newingtonにあり、私の住んでいる辺りからは車で2時間ぐらいの所です。メンバーの方とEye-ballで会うのも去年のフィールドデー以来。今回参加したのは11名。



到着するとタワーが3つ4つあるのを見てまず大興奮、ニヤニヤが止まりません。そのタワーですが、ビームアンテナが7つぐらい？木の枝の如く乗っているもの。衛星を狙ってそうなもの。パーティカルアンテナ。もちろんダイポールも何せこれでもかというぐらいアンテナがありました。あんなにあって電波干渉しないのかしらと不思議でしょうがありません。何度か数えようとしたのですが途中でこんがらがってしまい諦めました。



W1AWのシャックを中心にタワーがたくさん立っているのがわかります。うちのクラブメンバーがウロウロしてそれぞれ撮影中。



アンテナ群です。とにかくタワー一つにアンテナが沢山載っていてビックリ！

ARRL HQ内へ



HQ正面写真、こちらにもアンテナが立ってますね。

ロビー/物販エリア

HQのビルの上にもタワーと別にアンテナが立っていて、こちらのコールサインはW1HQ。そのままですね。入り口を入るとまずはビジターセンターがあり、そこにARRL出版の本、そして何台かの歴史を感じさせるリグが綺麗にディスプレイされています。



最上部左上から
Jonson Ranger II
Heathkit H W-100

2 段目

Kenwood TS-520
Colins75A-4
Receiver

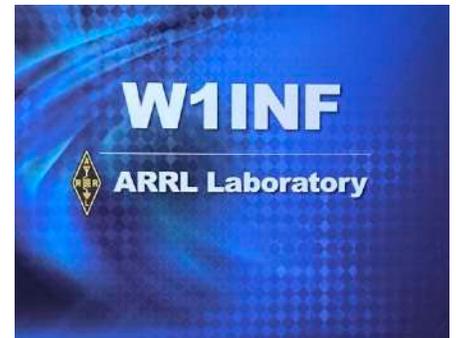
3 段目

Hallicrafters Model-
S-38
Hammarlund Hq-
One-Seventy

きっとみなさん見覚えのあるものなのでは無いでしょうか？私が見た事があるのは多分叔父が確か持っていたような記憶があるKenwoodのものぐらい。メンバーの方はそのうちの一台、コリンズの75A-4というレシーバーを見て、いつかこれが欲しいと言って舐めるように見てましたね。名前ぐらいは聞いたことありますが私にはicom、Yaesuの最新機の方が...

ARRL Laboratory

そして次にラボ見学。ここもコールサインが付いてますね。ラボの見学は申し込み時にはダメだと言われていたようですが、スタッフの方が気転を回してくれたのか、人数が減ったからなのか、なんとラッキーなことに見学OKとのこと。ラボ内にはいろいろな機材や計測機器、QSTに掲載したような試作機もここに並んでいるそうです。このラボで色々と試作をしたり、製品評価したりをするそうです。



試作機が並んでいます



ラボ内の様子、綺麗に整頓されています

Screen Room

そしてラボの左手の通路を奥の方に進むとScreen Roomという部屋があります。天井から壁、床まで全て金属に覆われていて、アースも完璧に取っているこの部屋は製品評価等で使われるそうです。

ここでこぼれ話として話してくれたのですが、以前この部屋に製品評価のため10日間ほど籠った人がいたのですが、食事は下の隙間から押し入れたそうですが、入るものはあっても出ていくものはありません。シャワーもトイレもないその部屋で彼は一体どうしてたんでしょうねフッフッフ。と笑ってました。私たちも爆笑。答えはあえて聞かずじまいですね。

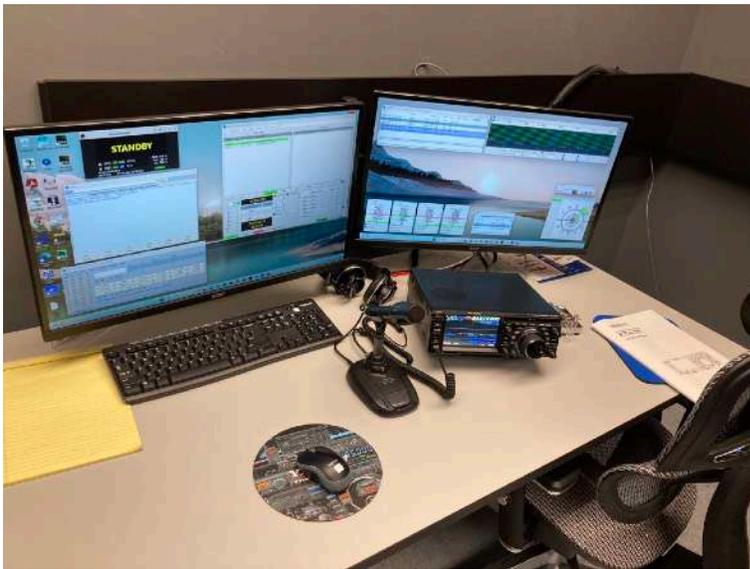


シールドを施しているもう一つの大きな理由は、すぐ近くにあるW1AWでオペレーションをしていると、その影響が大きく出てしまい、機材の繊細なテストができない。ということもあるそうです。

W1HQシャック

次に案内されたのW1HQのシャックです。PCの置いてある机は3人分あり、無線機も置いてないところもありますが、全てラックに収めているようです。モダンですね。見たところITルームに見える感じでした。ほとんどの無線機の類はラックに収納してありました。

この部屋のリグは、携帯一つでリモート運用できるようにしているとのこと。



博物館

そして次は無線機の博物館的な部屋。そこは縦長の部屋で、片側の壁に棚が設置され、そこに古いリグがずらり並んでいました。手前から明らかに戦前のものらしきものから、比較的新しい4、50年前のっぽいものまで順番に並んでいました。多すぎて詳細は説明不能です。もっともどれを見てもほぼ知らないものばかりですけれど。



部屋の反対側にはラックの他、机が置いてあり、かなり初期のものと思われる無線機に
違いがないというものがヘッドフォン、電鍵と『触らないでね』のサインと一緒に飾って
ありました。この部屋が見学コースの最後でビルの中の1/2ぐらの範囲をぐるりと一
周回った感じ。そしてビジターセンターに戻りました。



残りの1/2、廊下の先の奥の方にも部屋がありました。そちらは秘密基地?ではなく、
Out goingのビューローとFCCの試験問題を管理している部屋などがあるそうです。
さて、ビジターセンターで本を買って、いよいよW1AWのシャックへ。

W1AW

ご存知の方も多いと思いますが、W1AWというコールサインはARRLの創始者の一人で初代プレジデントの、Hiram Percy Maxim (W1AW)という方のコールサインだったのそうです。場所は最初に入ったHQの丁度正面にあります。アンテナがど



うしても目に入るのでもた見上げて一度撮ったのにまた写真を撮ってなかなか中に入れません。シャック正面（現在使っている出入り口の真裏）でメンバーみんなで記念写真。みんな自分の携帯で撮ってもらいたくてなかなか終わりません（笑）。

ひとしきり写真を撮っていよいよ中へ。入り口で記帳をするのですが、その反対側に年季の入った古い木箱のようなものと、黒いロッカーぐらいの高さがどちらも無線機の一部と思われるもの。これはW1AW(Hiram Percy Maxim)が使っていた無線機ということです。デモで昔は運用してたよとメンバーの方が話してました。どういう仕組みかはきっと皆さんの方が知ってらしゃると思いますが、Spark gap transmitterという方式らしいです。



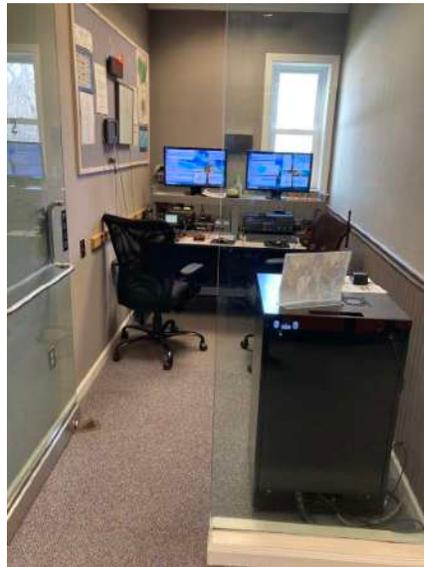
シャックは入ってすぐのところがコントロールセンターのようになっています。そしてその背面に無線のラックが6つあり、無線機、リニアアンプをはじめ様々な機材が収納されています。ここから有名なCW等の練習に使う定期放送？を流しているようです。そしてその前に3つの部屋があり、無線機・リニアアンプがそれぞれの部屋に2台ずつ設置してあります。みんな楽しそうで、私もテンション上がりっぱなしです。



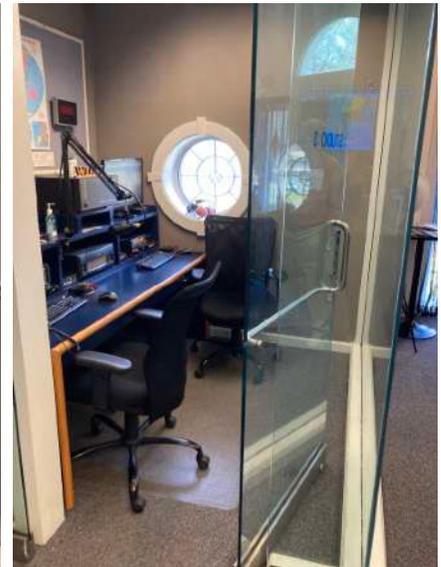
Studio1



Studio2



Studio3





真ん中はEcholinkですね。他は？右の写真はMarcom Wireless Companyのストックの証書？

設備の説明を受けた後、3つの部屋にある無線機を自由にお使い下さいとのことでしたので早速みんな無線機のところへ。ここで交信するにあたり最低限のルールがあり、FCC免許を持参すること。使用するコールサインはW1AWのみ。使用する周波数ですが、無線機ごとに固定、アンテナの事情もあり、さすがに多バンド自由に変えてとはいきませんが6台それぞれ別々のバンドが振られていたようです。私が使用したのは21MHzと14MHzのものです。

OMの方が多かったので取り敢えずみんなの運用を見てからと思いましたが、「Hey Nori, have a seat!」と、鋭い眼光でもう全然、有無をいわせない感じで言われてしまい、座らせていただきました。これは優しさですね、ありがたい。それぞれの部屋はそれほど広いわけではないので、どのリグもヘッドフォンが装着され、PTTはフットスイッチになっていました。

最初に21MHzで使用したリグはFTDX-101MP、高級機ですね。ヘッ



ドセットはFlexRadioのガッツリ重いものでした。交信中の局を探すとPOTAの局が出ていたので呼んでみました。こちらのコールサイン2ど聞き返され、「ホウホウホウ W1AWね、よく知ってるよ、呼んでくれてありがとう！」と返されました。普通W1AWが呼びに回るなんて思いませんから、誰でも驚きますよね。他にもう1局とも交信。こちらもPOTAの局でした。

次に隣にあったKenwoodTS-990が空いたのでそちらへ移動。こちらは14MHz帯でした。これまた最高級機ですね。こちらでの何局か見つけたのですが、どれも前の人交信済み。なるほど席を立つ訳だ（笑）。

CQ出してみようとも思いましたが、Phoneではまだ一度も出したことないので、パイル間違いなしのこのコールサインではさすがに勇気が出ず思いとどまりました。

そんなこんなで他の無線機の前にも座りアンテナのロータを回してワッチしたり、スタッフの方の話を聞いたりして楽しみました。

結局、私が交信ができたのは最初の2局だけでした。この日は本当にコンディションが悪かったんですね。

後ほどW1AWを運用した？サティフィケートを郵送してくれるとのとこでした。

無線機で遊んでいると、そろそろ帰ろうかと言う話になりました。3時間ほどの滞在となりました。昼前に来て昼食抜きで遊んでましたので帰りにみんなでレストランに寄って食事。6月末のフィールドディをどうするのかなど色々とおしゃべり。楽しい時間でした。

ツアーは当初30人乗りの大型バスを借りて行く予定にしていたようですが想定していたほど人が集まらず11人が4台の車に分乗して行くことに。でも後で考えたら人数少なくてゆっくり見学できて遊べたので丁度いい人数でした。

そして何より、行き帰りの車中でハンディー機を持ち込み交信しながら行ったのが個人的には良かったです。このスタイル懐かしいですね～。今なら携帯があるのでなんてことないですが、子供の頃、叔父やその友人たちに連れられて車何台かでスキーに行っていた時は、叔父たちが交信しながら行っていて、途中休憩場所の連絡を取ったり、そんなことを思い出しました。



今回、交信中離れすぎで聞こえなくなったこともありましたが、あえて携帯は使用せず、もうちょい行ったら繋がるよと。この感覚でみんなやってるんだなと思うとなんとか楽しくなりました。

以上です。

73、

AA1NK 梶田範行